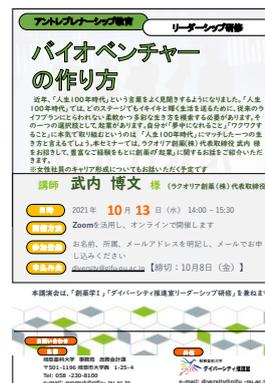


リーダーシップ研修 実施報告書

- 【日時】令和3年10月13日（水）14：00～15：30
【場所】岐阜薬科大学 zoom によるオンライン開催
【講師】武内 博文 氏（ラクオリア創薬株式会社 代表取締役）
【演題】バイオベンチャーの作り方
【参加者数】73名（Zoom 利用者）

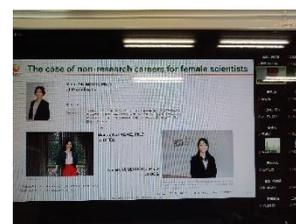


このセミナーは、岐阜薬科大学アントレプレナーシップ講演会（Tongaliプロジェクト）として開講された。Zoom によるオンライン開催となり、岐阜薬科大学の教職員や学生、関係機関の構成員が多数受講した。

講師は複数の企業において財務、経理、経営企画等を担当し、今年から現職である。講演では、工業系とバイオ系の違い、企業運営や成長過程での注意点、事業計画の検討が重要であることなど、多岐にわたる内容を端的に理解しやすくお話いただいた。ダイバーシティ関係では、バイオベンチャー企業では人種・国籍・思想など多種多様な社員が集まる企業も多くあること、また、Ph.D を取得している女性科学者がコンサルタントなど研究職以外でも活躍している点も紹介いただいた。

ラクオリア創薬では、今年から女性役員が就任した。役員・管理職総数 29 人のうち女性は 5 人であり、女性比率を上げていくことが課題であると認識しているが、特別に意識せずとも男女比が半々になっていたという状態にしたい、と言われた。現在の女性管理職はすべて内部昇格者であることは強調されていた。理想的である。働き方改革も課題にしており、リモートやサテライトオフィス利用など多様な働き方を試行錯誤している。

質疑応答では、学生に対して助言等もいただいた。卒業後まっすぐにベンチャー企業就職ももちろんよいが、大手（既存の）企業の方がより良い。なぜなら創薬の基本や社会人としての基本を学ぶことができ、また転職が普通である現代では、知り合いを増やすという意味でも優位に働くことになるからである。



また、講義や研究室での勉強をしっかりと取り組むことが社会に出た時に必ず役に立つとメッセージがあった。最も重要なことは、日々やるべきことをしっかりとやる、という当たり前のことであった。

学生にとって普段の講義では触れることの少ない分野の話を開けたことは非常に有意義であったと思われる。また、本学が法人化すれば学内ベンチャーも可能になることを鑑みると、教職員にとっても参考になる非常に有意義な講演会であった。